

環境 国際理解
地域文化 人権
生物多様性 防災
エネルギー その他

岡崎市立竜南中学校



創立：1986年
住所：〒444-0806 岡崎市緑丘二丁目17番地
連絡先：TEL 0564-54-4400 FAX 0564-54-4401
学級数：18 生徒数：548人
HP：http://www.oklab.ed.jp/weblog/ryunan/

地域が誇る「竜南いのち守り隊」

はじめに

「南海トラフ巨大地震が高い確率で発生する」と言われて久しい。そうした状況の中、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、私たちに震災の恐ろしさを感じさせた。人間の想像をはるかに超える自然災害を防ぐことはできない。しかし、被害を減らすことはできるはずである。一番大切なのは、生き残ることである。

本校では、「自分の命を自分で守る」ことを目標に防災学習に取り組んでいる。また、中学生が、自分の命を守る行動を取ることが、地域住民の命を救うことに繋がるとも考えている。

地域を導く防災リーダーとなるべく、生徒たちは日々防災学習・ボランティア活動に取り組んでいる。

実践内容①

「地域の防災リーダーになろう」



ねらい：防災学習を通して、持続可能な地域社会の担い手となる生徒の育成

本校では、1、2年生のころから、全校生徒による追究活動「竜南いのち守り隊」として、生徒たちは意欲をもって防災学習に取り組んでいる。中でも3年生は、年間を通して特に力を入れている。

1学期は「つかむ」段階として、防災オリエンテーションや、防災講話などを行い、漠然としか知らなかった地震について学ぶ。

2学期の防災学習を前に、夏休みには東北復興支援訪問として宮城県の荒浜中学校と漁業協同組合、閉上震災を伝える会を訪れ、現地の人と交流することによって、災害というものを目の当たりにする。この経験は、2学期に生かされていく。

防災のエキスパートとしての自覚を持たせるために、学年を衣食住の3つに分け、それをさらに細分化したカテゴリー

学習を行った。生徒一人に一つの専門性をあたえ、少ない人数で協力しながら「追究する」段階とする。このときに、東北を訪問した生徒が中心となり、「中学生にできること」「自分たちが住む地域に必要なこと」を考えながら学習を進める。

3学期には、防災学習のまとめとして「防災フェスタ」を開催する。1年を通して学んできた防災学習を1、2年生に発表する。3年生は後輩に「伝える」段階として、「分かりやすく」「楽しく」を考えて発表の準備を行う。そうすることで、3年生は知識を定着させ、また、その体験的な発表を聞くことにより、1、2年生にも楽しみながら学べるものとなる。発表を通して、3年生は防災リーダーとしての自覚をより一層高め、1、2年生は防災学習に興味をもつことで「竜南いのち守り隊」の活動を引き継いでいる。



地域を知る。災害図上訓練(DIG)

成果

一人に一つ専門性をもたせることで、深く追究することができた。また、防災フェスタの中では、それぞれのカテゴリーで学んだ内容を共有することができた。3年生が1、2年生に発表する姿からは、防災リーダーとしての自覚が表れていた。学んだ知識を家庭で生かし、地域に広めていくことを期待したい。

実践内容②

「中学生と地域とを繋ぐボランティア活動」

ねらい：地域から頼りにされていると知り、地域の担い手であると自覚する生徒の育成

夏休み中には、多くの生徒が希望し、ボランティア活動を継続的に行っている。

学区小学校の夏祭りボランティアでは、準備段階から運営に携わっている。学区に小学校は2校あり、両校の地区委員からそれぞれ依頼をされている。生徒は、会場の清掃を行った後に、担当となる出店の準備に移る。ヨーヨー風船や輪投げ、射的など種類も豊富である。

「高年者センター岡崎」では、夏祭りの運営と本校オーケストラ部の演奏を行っている。夏祭りでは、生徒会役員がかき氷の販売を行ったり、盆踊りに参加したりして会場を盛り上げている。オーケストラ部の演奏は、多くの施設利用者の方が楽しみにしているイベントの1つである。

防災学習の一環で行うのが、東北地方復興支援訪問である。今年度は亘理町漁業協同組合を訪問し、職業体験をさせていただいた。津波被害の恐ろしさを知るとともに、復興に向けて活動されている方のお手伝いをさせていただいた。また、亘理町立荒浜中学校を訪問し、ベルマークの寄贈式を行った。ラジカセやキーボードペダルに変えて、使ってもらっている。

環状線道路清掃ボランティアでは、自分たちが登下校で使用する道路を、ごみ袋を片手に歩く。地域の方々と会話しながら一緒に活動を行っている。今年度は100名近くの生徒が参加した。

昨年度から依頼されるようになったのが、学区小学校寄



地域の方と道路清掃ボランティア

成果

今年度、第20回ボランティア・スピリット賞の全国表彰式で、「SPIRIT OF COMMUNITY奨励賞」を受賞した。これは自分たちの活動に誇りをもつには十分な評価であり、「これからも地域のためにボランティア活動をしていきたい」との声が多く聞かれた。活動に誇りがもてたことや、地域に根付いてきたことが成果である。

おわりに

本校は、5年前から防災学習やボランティア活動を特色ある取り組みとして始め、継続的に活動を行っている。学校全体で、これらの活動に対する意識が高まっており、「ボランティア活動は、参加するもの」「3年生になったら防災学習を行う」という考えが、当たり前ものとなってきている。こうした考えは、自覚を促し、新たな活動へと向かわせる。先輩から受け継いだものを

重んじながらも、自信をもって新たな取り組みに参加していく。

いつ必要になるかが分からないのが、防災学習である。その知識は明日、いや1年後、10年後に必要となるかもしれない。今、この瞬間かもしれない。だからこそ、「今、学ぶ」ということを大切にして「竜南いのち守り隊」の活動は今日も続いていく。



学区小学校夏祭りボランティア

贈品バザーボランティアである。販売から警備まで、様々な係を任されている。

加えて、学区の防災訓練にも多くの生徒が参加している。運営ボランティアとして昨年度は100名を超える生徒が参加したため、今年度は3年生に限定して活動を行った。それでも50名近くの生徒が活動に取り組んだ。地域の方に頼りにされているという実感を得ることができた。

今年度、新たな取り組みとして、ボランティアの方と災害派遣ボランティア体験を行った。どのような仕組みでボランティアが派遣されるのか、またボランティアに必要とされることは何かを学んだ。

また、生徒会役員が企画したのが、公園清掃ボランティアである。日程の関係で3年生限定としたが、50名程度が参加を表明した。残念ながら雨天中止となってしまったが、生徒のボランティアに対する意欲の高さがうかがえた。

年間を通して行っているのが、ベルマーク収集とプルタブ回収、ペットボトル回収である。生徒会役員が中心となって情宣することで、全生徒が協力する活動となっている。

多種多様な活動を通して、地域との関係性が構築されている。互いに助け合っていることを生徒は身をもって感じることができ、「地域のために」という地域愛をもったボランティア精神を抱くことができていく。